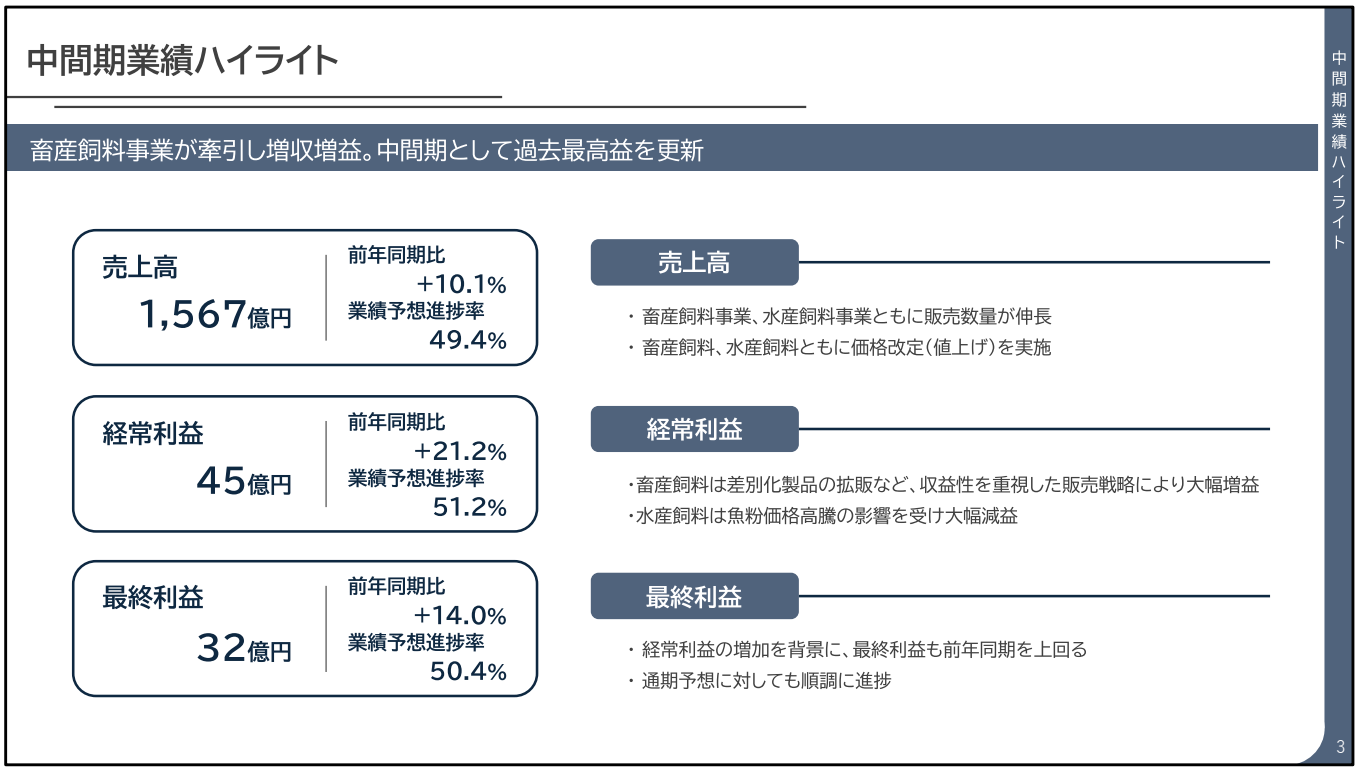


2027年3月期中間期決算補足説明資料です。

中間期業績ハイライト　・・・P3
事業成長を示す指標　・・・P4
中間期決算概要　・・・P5～
通期業績予想　・・・P12
トピックス　・・・P13～

おいしさのみなもと FEED ONE

本資料では、中間期業績ハイライト、事業成長を示す指標、中間期決算概要、通期業績予想、トピックスの順にご説明します。



当中間期は、魚粉価格が過去最高値圏まで高騰し、水産飼料事業の原価に大きく影響を与える中、畜産飼料事業を中心に全社業績を支え、業績は順調に進捗しました。

売上高は1,567億円、経常利益は45億円、親会社株主に帰属する中間純利益は32億円となりました。前年同期比では、売上高は10.1%、経常利益は21.2%、最終利益は14.0%の増加となっています。

飼料事業の販売数量が増加したことに加え、畜産飼料の四半期毎の価格改定、水産飼料の魚粉価格高騰に応じた価格改定により売上高は増収となりました。
畜産飼料事業では差別化製品の拡販により粗利益が拡大し、食品事業では鶏卵部門の販売数量が大きく伸長したことにより増益となりました。

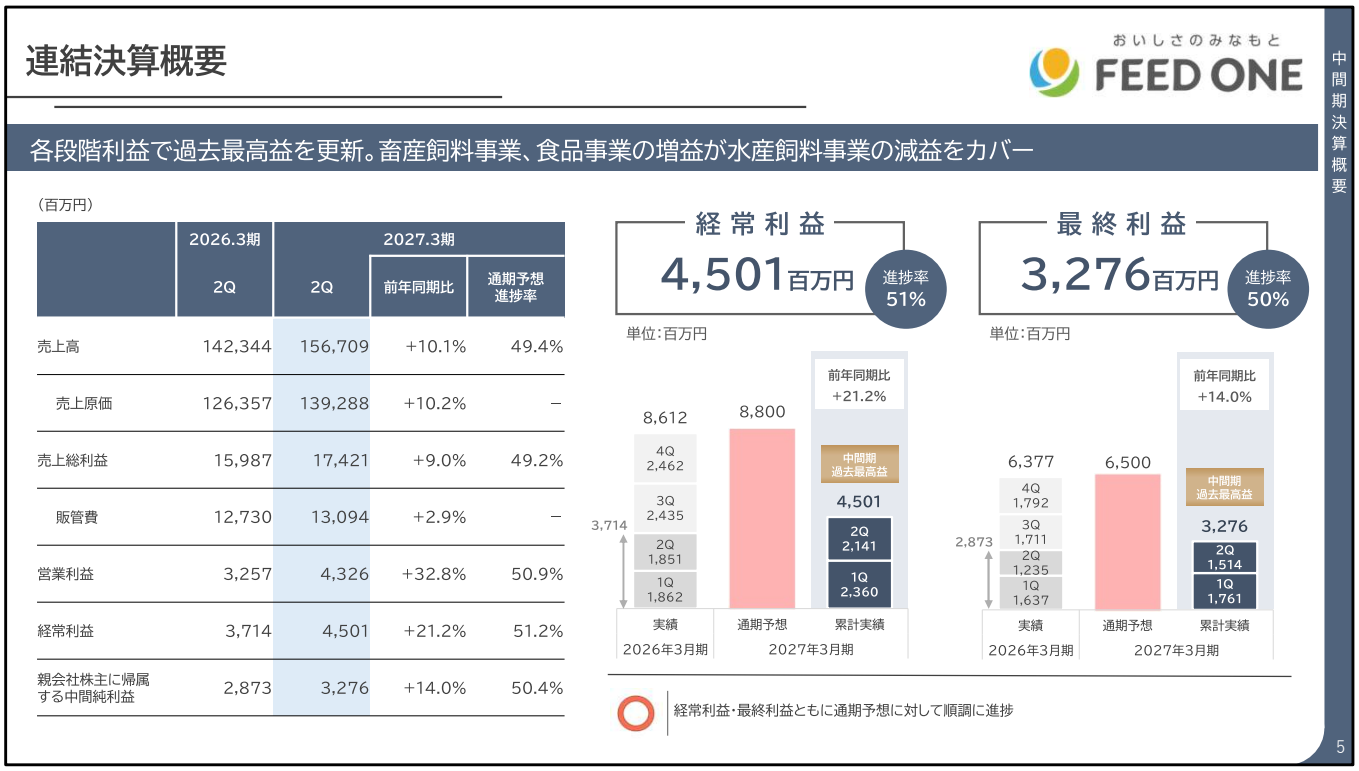
通期業績予想に対する進捗率は経常利益、最終利益で50%を上回っており、概ね計画どおりに推移しています。



当社の主力事業である畜産飼料事業は、原料価格の変動に応じて販売価格を改定する事業特性を有しています。
原料価格に応じて売上高が大きく変動するため、売上高利益率ではなく、トン当たりの利益額を重要な経営指標としています。

国内市場が横ばいで推移する中、販売数量の拡大や大量生産によるコスト競争力を追求する「数量拡大型」の事業モデルには限界があります。
当社は「付加価値・ソリューション型」への転換を進め、幼齢期飼料や暑熱対策飼料などの高付加価値製品の拡販、飼養技術の提案、代替原料の活用、製造効率の改善に取り組んでいます。

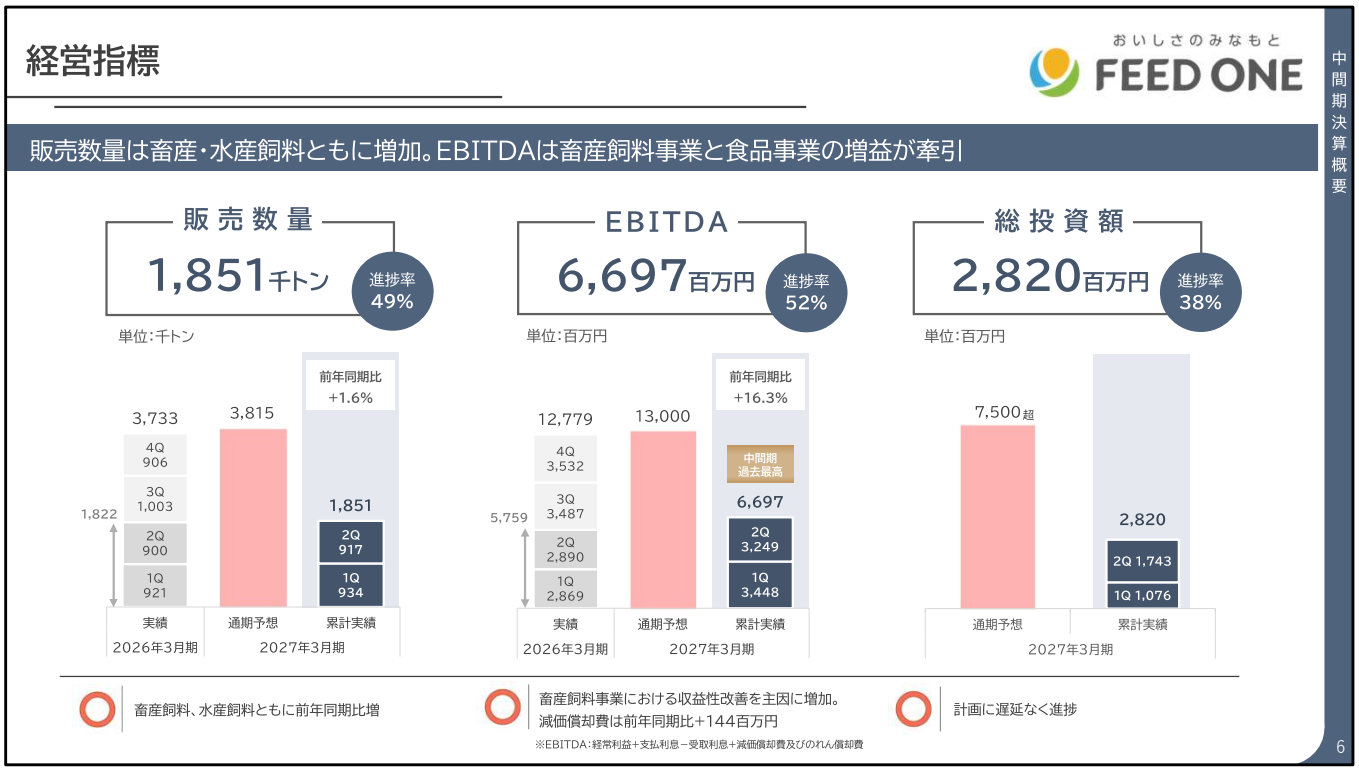
こうした取り組みにより、トン当たり利益額は統合後10年間で1.8倍に増加しました。
2027年3月期は3,000円／トンを計画しています。



売上高は1,567億円となり、前年同期比10.1%の増収となりました。畜産飼料事業および水産飼料事業における販売数量の増加と価格改定が主な増収要因です。

利益面では、営業利益43億円、経常利益45億円、最終利益32億円となりました。
畜産飼料事業と食品事業の増益が水産飼料事業の減益をカバーし、中間期として各段階利益で過去最高益を更新しました。

通期業績予想に対する進捗率は、営業利益50.9%、経常利益51.2%、最終利益50.4%となっており、概ね計画どおりに進捗しています。



販売数量は185万1千トンとなり、前年同期比1.6%増加しました。畜産飼料、水産飼料ともに前年同期を上回っています。

EBITDAは66億97百万円となり、畜産飼料事業の収益性改善と食品事業の増益により、前年同期比16.3%増加しました。減価償却費は前年同期比1億44百万円増加しました。

総投資額は28億20百万円となり、通期計画に対する進捗率は38%で計画に遅延なく進行しています。

セグメント別業績

おいしさのみなもと FEED ONE

中間期決算概要

畜産飼料事業と食品事業の増益が水産飼料事業の減益をカバー

（百万円）

セグメント		2026年3月期 2Q	2027年3月期 2Q	増減額	前年同期比	通期予想進捗率
畜産飼料事業	売上高	109,487	119,831	+10,344	+9.4%	49.9%
	セグメント利益	4,536	5,735	+1,199	+26.4%	55.2%
	EBITDA	5,882	7,188	+1,306	+22.2%	54.5%
水産飼料事業	売上高	11,811	15,990	+4,178	+35.4%	51.6%
	セグメント利益	669	176	▲492	▲73.6%	11.8%
	EBITDA	953	483	▲469	▲49.3%	23.0%
食品事業	売上高	21,039	20,883	▲156	▲0.7%	45.4%
	セグメント利益	55	169	+113	+203.7%	56.6%
	EBITDA	173	286	+113	+65.3%	57.3%
その他/調整額	売上高	6	3	▲2	▲40.8%	–
	セグメント利益	▲1,546	▲1,580	▲33	–	–

※セグメント利益：経常利益ベース
※EBITDA：経常利益＋支払利息－受取利息＋減価償却費及びのれん償却費
※その他＝海外事業及び不動産賃貸事業等、調整額＝報告セグメントに含まれない損益

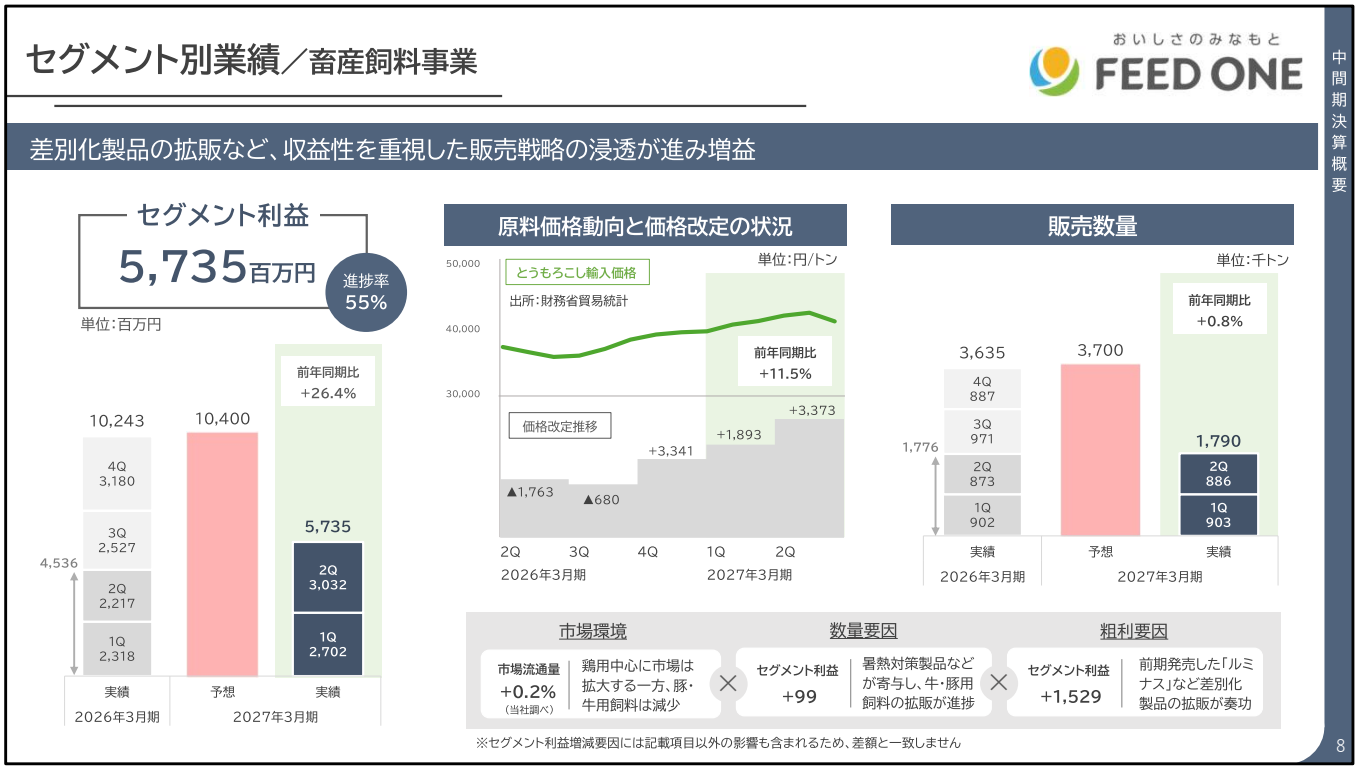
7

利益面では、畜産飼料事業と食品事業の増益が、水産飼料事業の減益をカバーしました。

畜産飼料事業は、売上高1,198億円、セグメント利益57億35百万円となり、販売数量の増加や差別化製品の拡販などにより増収増益となりました。

水産飼料事業は、売上高159億円、セグメント利益1億76百万円となりました。販売数量の増加などにより売上高は増加したものの、魚粉価格の高騰により収益性が悪化し、減益となりました。

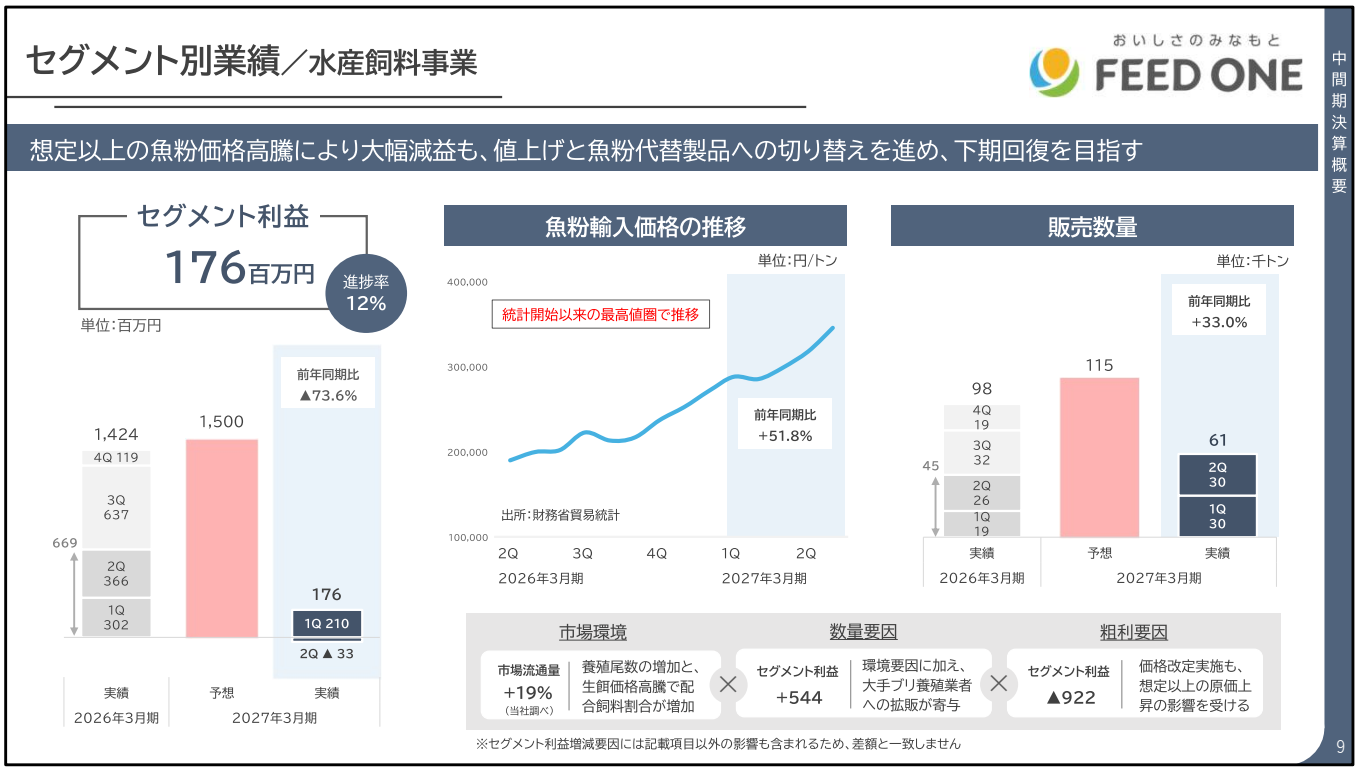
食品事業は、売上高208億円、セグメント利益1億69百万円となり、食品事業全体としては減収となったものの、鶏卵部門の販売数量増加や価格条件の見直しなどにより増益となりました。



販売数量は179万トンとなり、前年同期比0.8%増加しました。
差別化製品の拡販などが寄与し、牛・豚用飼料で拡販が進みました。市場流通量は前年同期比+0.2%となっています。

セグメント利益は57億35百万円となり、前年同期比26.4%増加しました。原料価格の変動に対応した価格改定に加え、前期に発売した「ルミナス」など差別化製品の拡販が寄与しました。

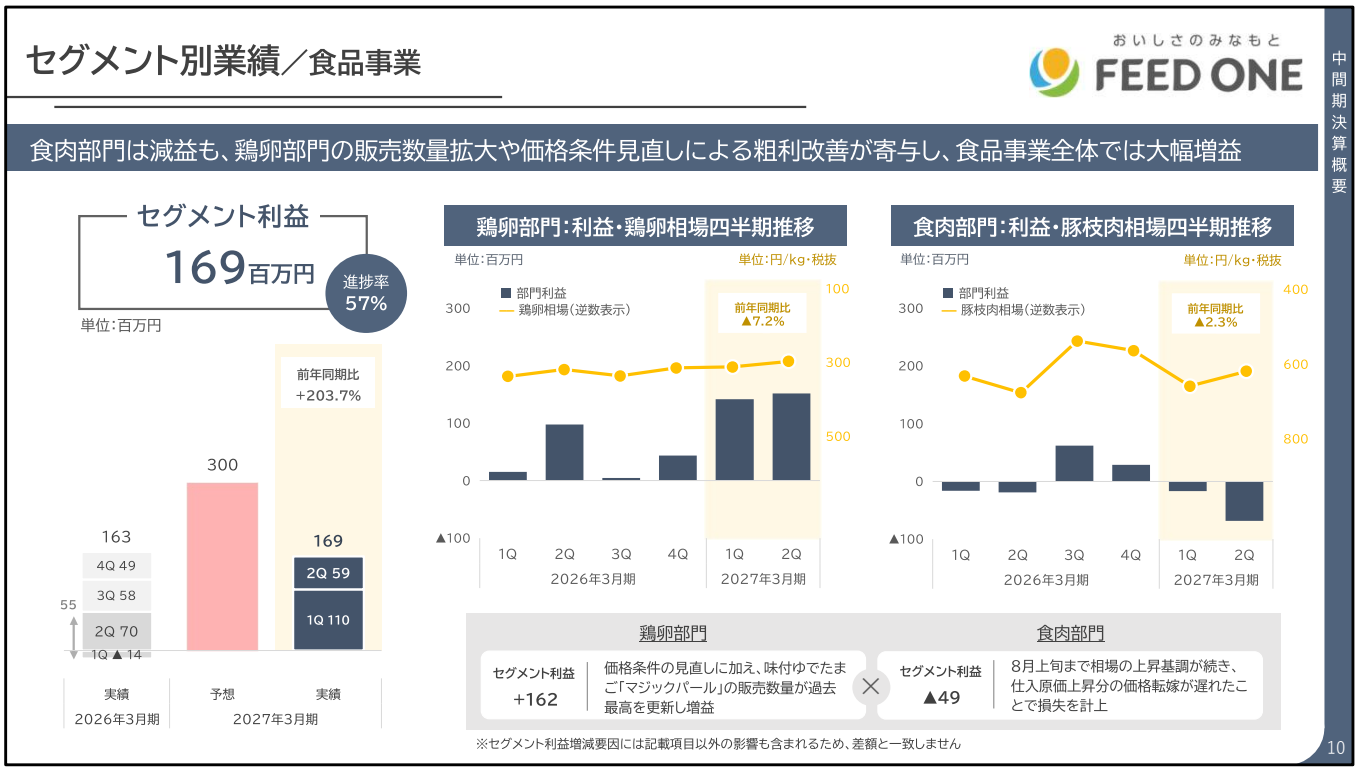
利益増減の内訳は、数量要因が+99百万円、粗利要因が+1,529百万円です。収益性を重視した販売戦略の浸透が進み、販売数量を確保しながら利益成長を実現しています。



販売数量は6万1千トンとなり、前年同期比33.0%増加しました。
主要魚種の養殖尾数増加や、生餌価格の高騰を背景とした配合飼料への切り替えなどの環境要因に加え、大手ブリ養殖業者への拡販が寄与しました。市場流通量は前年同期比+19%となっています。

一方、魚粉輸入価格は統計開始以来の最高値圏で推移しました。価格改定や魚粉代替製品への切り替えを進めたものの、想定以上の原価上昇を吸収しきれず、セグメント利益は1億76百万円、前年同期比73.6%減となりました。

利益増減の内訳は、数量要因が+544百万円、粗利要因が▲922百万円です。下期は10月に実施した今期2回目の価格改定と、魚粉代替製品のさらなる拡販により、収益性の回復を図ります。

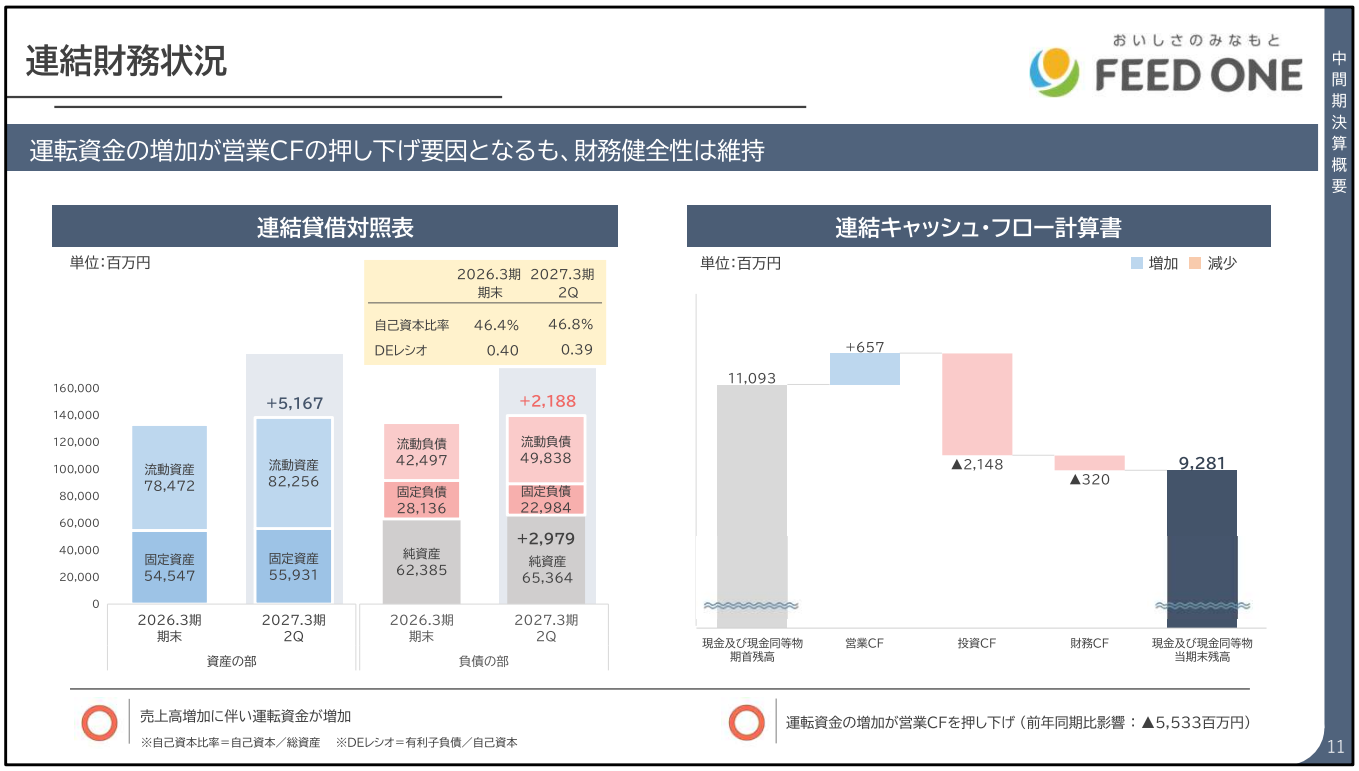


セグメント利益は1億69百万円となり、前年同期比203.7%増加しました。

鶏卵部門では、価格条件の見直しに加え、味付ゆでたまご「マジックパール」の販売数量が過去最高を更新し、増益となりました。

食肉部門では、豚枝肉相場は前年同期比で低下したものの、期中の相場高騰時に価格転嫁が遅れたことから、損失を計上しました。

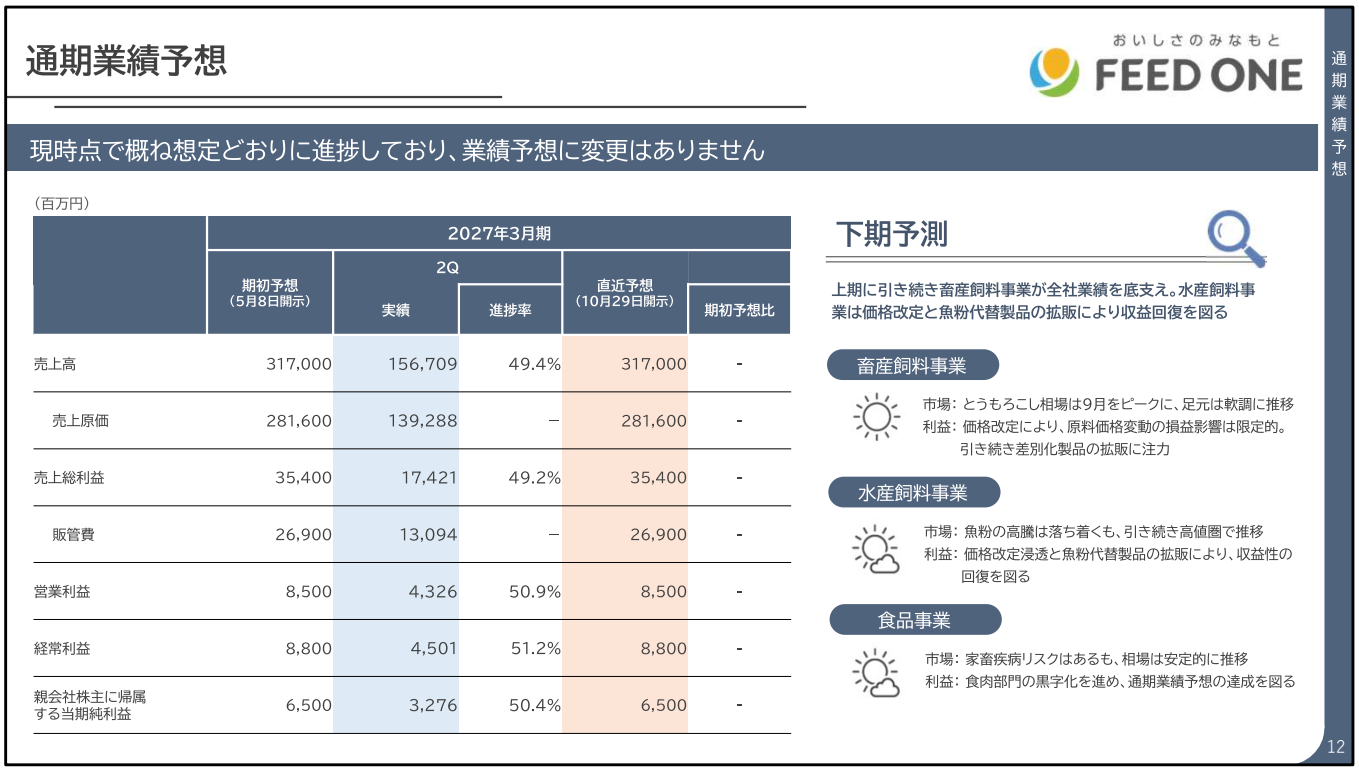
鶏卵部門の増益が寄与し、食品事業全体では増益となりました。



総資産は、2026年3月期末から51億67百万円増加し、1,381億87百万円となりました。販売価格の上昇や販売数量増加による売上高増加に伴い、運転資金が増加しています。

営業キャッシュ・フローは、税金等調整前中間純利益を計上した一方、運転資金の増加が下押し要因となり、6億57百万円となりました。投資キャッシュ・フローは21億48百万円の支出、財務キャッシュ・フローは3億20百万円の支出となり、現金及び現金同等物の中間期末残高は92億81百万円となりました。

自己資本比率は46.8%、DEレシオは0.39倍となり、前期末と概ね同水準で推移しています。運転資金需要が増加する中でも、財務健全性は維持しています。



中間期の進捗率は、営業利益50.9%、経常利益51.2%、親会社株主に帰属する当期純利益50.4%となり、現時点で概ね想定どおりに進捗しています。このため、通期業績予想は期初予想から変更していません。

畜産飼料事業では、とうもろこし相場は9月をピークに、足元は軟調に推移しており、四半期毎の価格改定により原料価格の変動による損益の影響は限定的とみています。引き続き、差別化製品の拡販に注力し、収益性向上を図ります。

水産飼料事業では、魚粉価格は依然として高値圏で推移する見通しです。価格改定の浸透と魚粉代替製品の拡販により、下期の収益性回復を図ります。

食品事業では、家畜疾病等のリスクに留意しつつ、食肉部門の黒字化を進め、通期業績予想の達成を目指します。



株主・投資家との対話強化に向け、日経・東証IRフェアへの参加や会社紹介動画の制作・公開など、情報発信の拡充に取り組みました。

日経・東証IRフェアでは、社長より、当社の事業内容や成長戦略について説明しました。

会社紹介動画では、当社役員・社員が出演し、事業、強み、成長戦略を分かりやすく紹介しています。

上期の投資家面談数は23件となり、前年同期比で14件増加しました。9月末の株価は1,442円、時価総額は555億円となりました。

今後も、積極的な対話機会の創出を通じて、当社への理解促進と企業価値向上につなげていきます。

※説明文章付き版では、クリックリンクは設定しておりません。



最近のトピックとして、ウナギ用無魚粉飼料「神威ZERO」の開発についてご紹介します。

ウナギ養殖では、魚粉価格の高騰による飼料コストの上昇が、養殖事業者の経営を圧迫しています。

当社はこうした課題に対応するため、国内で販売されるウナギ用配合飼料として業界で初めて、魚粉を一切使用せず、必要な摂餌性と保形性を確保した飼料を開発しました。

本件は、日本経済新聞、水産経済新聞、テレビ朝日の「グッド！モーニング」など、複数のメディアで紹介されています。

本取り組みについては、11月17日の中間期決算説明会で詳しくご説明します。

※説明文章付き版では、クリックリンクは設定しておりません。



参考資料

会社概要

おいしさのみなもと FEED ONE

会社名		フィード・ワン株式会社
所在地		神奈川県横浜市西区みなとみらい五丁目1番2号
代表		庄司 英洋
設立		2014年10月1日
資本金		100億円
従業員		935名（2026年3月31日現在／連結）
筆頭株主		三井物産株式会社（持株比率／25.6%）
事業		配合飼料の製造・販売、畜水産物の仕入・販売・生産・加工等 上記に付帯関連するその他事業（農場の経営指導、家畜診療施設の運営等）



代表取締役社長
庄司 英洋

PURPOSE（企業理念）

飼料で食の未来を創り、命を支え、笑顔を届ける

16

関係会社概要 2026年9月末時点

おいしさのみなもと FEED ONE

配合飼料の製造・販売から農場・食品までを事業領域とし、日本の「おいしさのみなもと」を創造しています

子会社 16社

● 飼料販売会社
- 北海道フィードワン販売㈱
- 道北協同飼料販売㈱
- 東北フィードワン販売㈱
- 関東フィードワン販売㈱
- 北九州フィードワン販売㈱
- 南九州フィードワン販売㈱

● 飼料製造会社
- 志布志飼料㈱

● 農場会社
- ㈲グリーンファームソーゴ
- ㈱第一原種農場
- ㈱南部ファーム

● 食品会社
- マジックパール㈱
- フィード・ワンフーズ㈱
- ㈱横浜ミート
- ゴールドエッグ㈱

● その他
- ㈲いわき中央牧場
- 南洋漁業㈱

持分法適用会社 11社

● 飼料販売会社
- ㈱北海道サンフーズ

● 飼料製造会社
- 釧路飼料㈱
- 仙台飼料㈱
- 鹿島飼料㈱
- 平成飼料㈱
- 八代飼料㈱
- マルイ飼料㈱

● 農場会社
- ㈱美保野ポーク

● その他
- KYODO SOJITZ FEED COMPANY LIMITED
- NIPPAI SHALIMAR FEEDS PRIVATE LIMITED
- 門司港サイロ㈱

畜産飼料事業セグメント　水産飼料事業セグメント　食品事業セグメント　その他セグメント

※道北協同飼料販売㈱の飼料仕入販売事業は、2027年4月1日付で北海道フィードワン販売㈱へ譲渡予定です。リリース内容はこちら

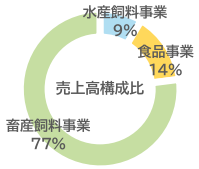
17

業績推移

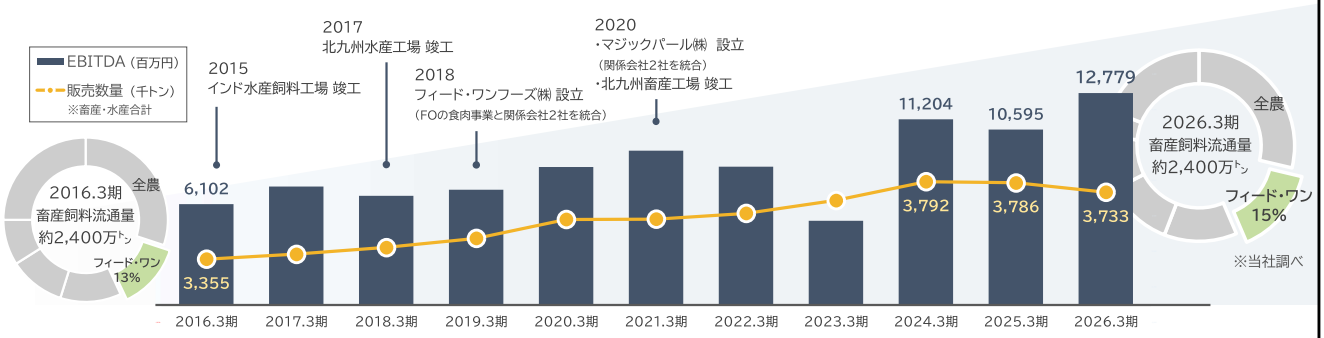
おいしさのみなもと FEED ONE

2026年3月期業績

売上高	2,906億円	販売数量	373万トン
経常利益	86億円	ROE	11.0%



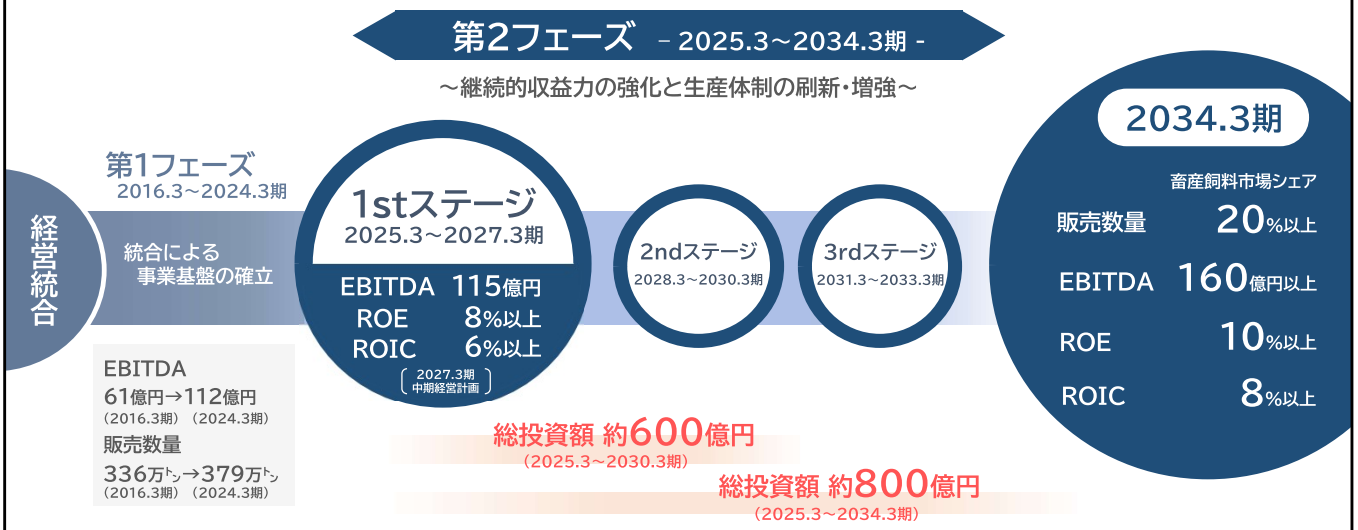
主力事業は畜産飼料であり売上高の約8割を占めています
水産飼料は約1割に留まりますが、市場規模の違い（畜産の約6分の1）に起因しています



長期ビジョン

おいしさのみなもと FEED ONE

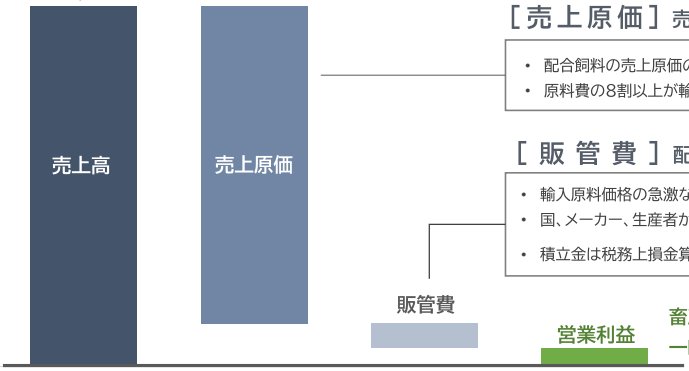
飼料の安定供給という使命のもと、社会の要請に応える製品を創出し、企業価値を向上します



事業特性

おいしさのみなもと FEED ONE

収益構造はコア事業である畜産飼料事業の影響が大きく、売上高だけでは収益性を捉えにくい事業構造です



［ 売 上 高 ］輸入原料価格の変動に応じ販売価格を見直し

- 畜産飼料は四半期に1度、輸入原料価格の変動に応じた販売価格の見直し(価格改定)が行われます
- 売上高は価格改定の影響を大きく受けるため、実質的な収益力を捉えにくい特徴があります

［売上原価］売上原価の大半を原料費が占める

- 配合飼料の売上原価の大半を原料費が占めています
- 原料費の8割以上が輸入原料となるため輸入原料の価格変動は売上原価に直結します

［ 販 管 費 ］配合飼料価格安定制度積立金を計上

- 輸入原料価格の急激な価格上昇が畜産生産者の経営に及ぼす影響を緩和する制度です
- 国、メーカー、生産者が基金を積み立てており、条件を満たした際に生産者に補填金が交付されます
- 積立金は税務上損金算入が認められ、2026年3月期は**約65億円**を販管費に計上しました

畜産飼料事業は輸入原料の価格変動に応じ販売価格の改定を行うため、一時的な変動はあるものの、利益は比較的安定しています

業界情報 畜産飼料業界の原料調達

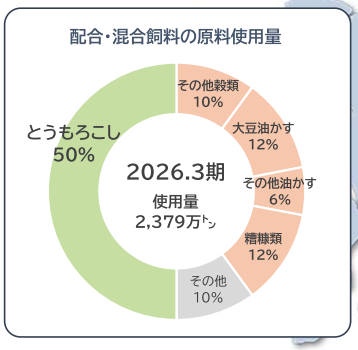
おいしさのみなもと FEED ONE

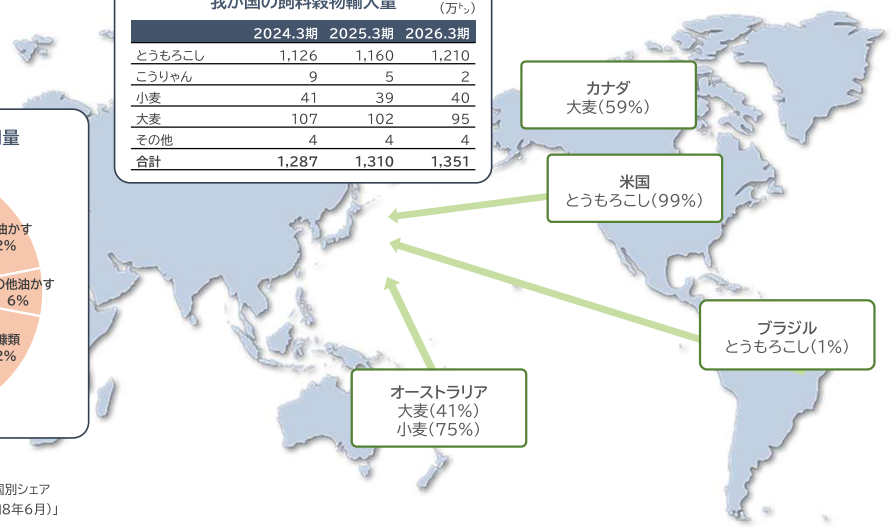
飼料穀物のほとんどは輸入に依存しており、特に、米国・オーストラリアに大きく依存しています

我が国の飼料穀物輸入量　（万トン）

	2024.3期	2025.3期	2026.3期
とうもろこし	1,126	1,160	1,210
こうりゃん	9	5	2
小麦	41	39	40
大麦	107	102	95
その他	4	4	4
合計	1,287	1,310	1,351

配合・混合飼料の原料使用量





注：括弧内の%は2026.3期の輸入量の国別シェア
出典：農林水産省「畜産をめぐる情勢（令和8年6月）」

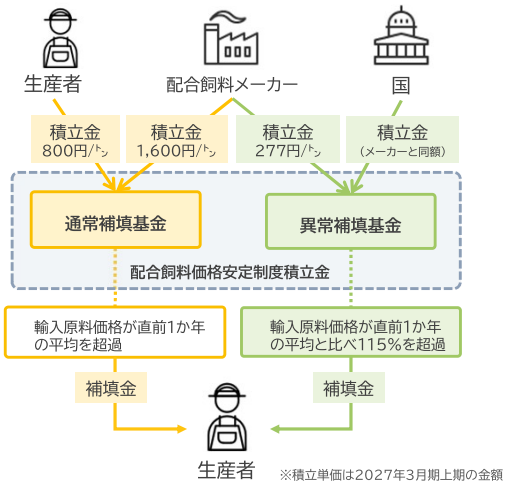
業界情報 配合飼料価格安定制度積立金

おいしさのみなもと FEED ONE

輸入原料の急激な価格上昇が畜産生産者の経営に及ぼす影響を緩和する制度です（※畜産飼料のみ）

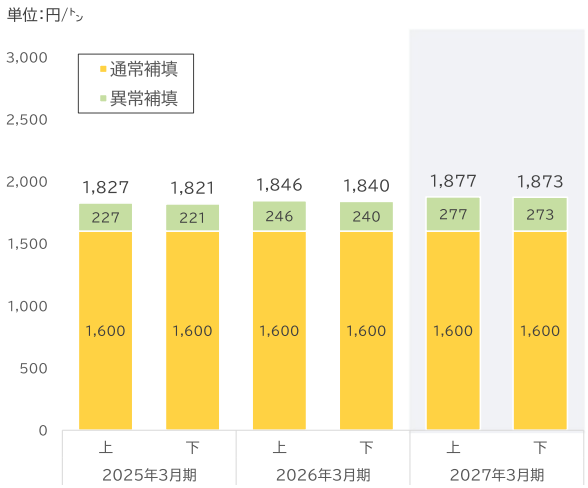
詳しくはこちら

［ 制度の仕組み ］



※積立単価は2027年3月期上期の金額

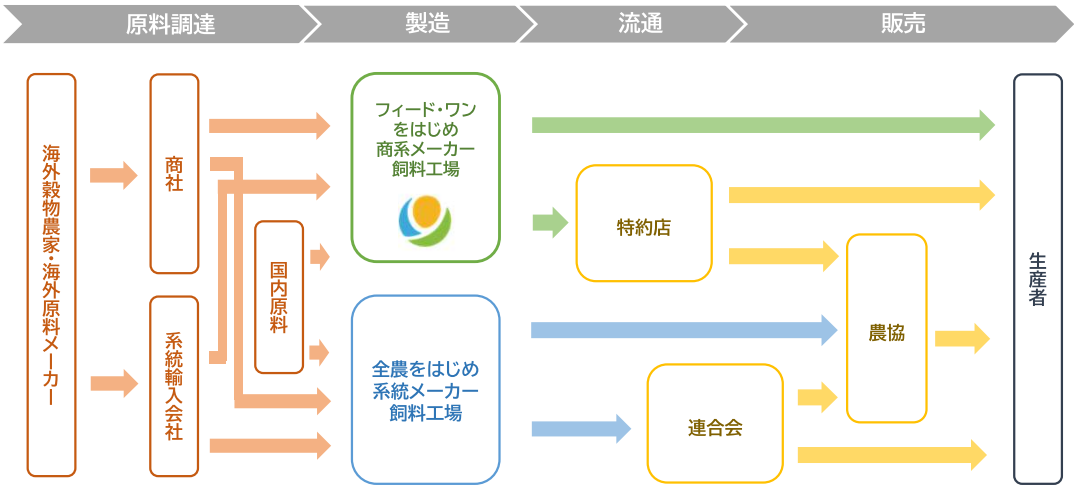
［ 積立金（配合飼料メーカー）］



業界情報 飼料の流通構造

おいしさのみなもと FEED ONE

飼料工場から生産者までの商流には、「メーカー直販」「特約店経由」「農協経由」等があります



参考情報　リンク先

おいしさのみなもと FEED ONE

フィード・ワン
IR情報 トップ



https://www.feed-one.co.jp/ir/

フィード・ワン
統合報告書2026



https://www.feed-one.co.jp/ir/integrated_report/

フィード・ワン
企業調査レポート



https://www.feed-one.co.jp/ir/sponsored_research_report/

24

※説明文章付き版では、クリックリンクは設定しておりません。

本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での当社の判断であり、
その情報の正確性を保証するものではありません
また、様々な要因の変化により実際の業績や結果とは異なる可能性があることをご承知おきください

<IRに関するお問い合わせ>

おいしさのみなもと
FEED ONE

財務経理部 IR・財務企画課
E-mail　：ir@feed-one.co.jp
Webサイト：https://www.feed-one.co.jp/

